



② 「けんちゃんの誕生日」

車椅子のお姉さんを通して、困り感に気づかされます。住みやすいまちってどんなのかを「おたがい様」というキーワードで考えます。

③ 「たくちゃんの運動会」

障がいを持つ子どものきょうだい児の気持ちを通しての物語。ことばにならない親子の思いを感じます。

④ 「校庭の卒業式」

一見してわかりにくい発達障がいを持つ男の子が、友人や家族に見守られながら避難所生活を送ります。やがて、周りの人々にも理解が広がります。

4作とも、プロジェクトチームの手作りです。

地域の小学校に在籍する障がいをもつ我が子のことを、学校のお友達に知ってもらおうと、メンバーのひとりが学校で紙芝居を読み聞かせたのが発端になり、活動の幅が広がっています。

保育所・幼稚園などへの出前紙芝居。区民まつりや、地域のお祭りでの上演。また、地域の小・中学校では、「みんなちがってみんないい」のテーマで、出前授業を行っています。紙芝居だけではなく、障がいを持つことの疑似体験をしてもらいます。「ことばがわからない」「手先が不器用」「見え方・聞こえ方などの違い」などの体験時の気持ちを通して、障がいを持つ友達の気持ちを少しでも感じ取ってくれればと思っています。そして、適切な接し方、伝え方をお話させてもらっています。



また、「協力して行うゲーム」や、「いろいろな場面設定の提示」を行って、その場にふさわしい発言や、ふるまい方を一緒に学びます。「円滑で円満な仲間づくり」が、ねらいです。

訪問をした小学校の先生やお子さんからは、「カエ

ルを用いた知的障がいの疑似体験(※注)や紙しばいを通じて、子ども達は障がいのある友達への配慮の仕方について考えるようになった。」(2年生担任)や「カエルの役をしました。障がいのあるお友達が、どのように困っているか分かりました。」(2年生女子)という感想も聞いています。

最近、日本全国あちこちでこのような取り組みがさまざまに始まっているようです。そのような中、すべての人から障がいに関する正しい理解がなされ、障がいの有無に関わらず、誰もが自分の暮らし慣れた街で、安心して暮らすことができるためには、障がいを持つ当事者の側からもこつこつとした発信が必要であると実感しています。我々親の会である育成会であるからこそ、地域でのこのような地道な活動にも積極的に参加し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けての役割を担っていく必要があるように感じています。

出前紙芝居・出前授業のお問合せは下記まで

大阪市福島区社会福祉協議会

TEL 06-6454-0531

(※注)カエルを用いた知的障がいの疑似体験とは「ケロケロ」という言葉しか使えない意思疎通ができない状況を体験することにより、知的障がいのある人の感じている不安感やイライラ感を実感するプログラムです。似たようなプログラムに広島県育成会の「ひろしま♡あび♡隊」等があります。

《法人事業発令》

○平成26年8月31日付

(退職)

田口 健一 (メープル主任)

大阪市育成会会員だより

《レクリエーション(本人活動支援)について》
ボウリング教室

10月は休会します

《勉強会のお知らせ》

- ・日 時：10月16日(木) 10:00~12:00
- ・場 所：社会福祉センター 301会議室
- ・テーマ：「子どもが高齢化していくことを親はどのようにしてとらえるか？」
- ・講 師：大阪市更生療育センター 次長 村江 昇 氏

《10月部会等日程案内》

部会名	日 時	会議室
支部連絡会	10月16日(木) 13:00	301